

将来のことを早期からゆとりを持って考える事ができる

A. N.

慶應義塾大学 理工学部 生命情報学科 進学
水戸市立 千波小学校 卒業

茨中・茨高ともに、学習のサポートが手厚く、中学校では週に2回、ウィークリーテストという数学と英語の小テストが行われ、それぞれ合格点以上を取らないと追試を受けるものだったので、いつも高得点を取れるように頑張っていました。数学は計算力がつき、英語は例文を覚えることで文法なども同時に覚えることができました。また、長期休業の際だけでなく、中3からは普段の放課後や朝の時間帯に古典や現代文の課外も行われていました。私も友達とともに参加していました。高校ではそれに加え物理や化学の課外を先生方が実施してくださり、塾に行かずとも復習や発展的な学習をすることができました。また、授業に関しては、授業中に聞いていて分からなかったところは授業後すぐに先生に質問をしに行き、疑問点をその場でなくそうとしていました。中学も高校も私が教わっていた先生方はいつでも質問に答えてくださり、とても頼りにさせていただきました。また、中3から医学コースが開講され、その頃医学部に進む予定は全く無かったのですが、ここに入れば勉強を更に頑張れるのではないかと思います友達と一緒に所属しました。医学コースで医師となる上での心構えや、チーム医療などの仕組み、医師として求められる力などを様々な講座で教わりました。そして医療とあまり関わりのなかった私も、医療分野に興味を持つようになりました。また、医学部で研究されている方の講座や漢方薬の品質体験など、研究員等の医師以外の立場で、どのように医療と関わるのかということについても学ぶことができたので、自分の進路の幅が大きく広がりました。医学コースに入っていなかったら医学部を視野に入れることもなく、医療分野に携わりたいと思うこともなかったと思います。このような進路を広げられるコースに所属できて良かったなと思っています。高校の医学コースでは高1から外部の医学部予備校の講師の方による、医系小論文の講座があり、早期から受験に向けた対策ができるのも良い点だと思いました。私は医学部には進学しなかったのですが、元々国語が好きだったので、理想の医師像を確立した上で課題に対して文章を書く、という経験によって国語力もつき、要約能力も向上したと感じています。そして将来、医療系の進路に進んだ場合にも医学コースでの学びを活かせるのではないかと考えています。私が医学コースで一番印象に残っている講座は、高1の時の東京慈恵会医科大学の嘉糠洋陸教授による「感染症のリスクを考える」という講座です。嘉糠先生は蚊など主に熱帯の節足動物感染症について研究されているのですが、この講座では実際に生きている蚊が用意されていて、本物に触れることによって人の体温に集まる蚊の習性を学びました。この講座が記憶に強く残っている理由は、本物に触れたから、というのはもちろんですが、医学部の中でも患者の治療を行う医者ではなく、先生のような医学研究者としての職業にとっても興味が湧いたからです。この講座を受けて私は研究がしたいんだ、と感じることができました。

私が思い出に残っている行事はたくさんありますが、その中でも2つ特に記憶に残っている行事があります。1つ目は中3の時の体育祭です。私は緑組の応援チーフとして、4色対抗の「ダンス」の演目のリーダーを行いました。中2の時はコロナ禍で、きちんとした体育祭を行うことができなかったのも、中学最後の体育祭を全力で行い、優勝したいと思いました。曲決めの段階から応援の人たちと打ち合わせを重ねて、相談し合っていました。体育祭は中1から中3までの全学年が参加する大規模な行事なので、全員をまとめるというリーダーの大変さを強く実感しました。朝早くから体育館に集まって、応援担当の人たちとダンスを練習したり、フォーメーションを考えたりしました。そんな大変さの中でも、みんなのダンスの動きが揃って最後まで通せたときはすごく嬉しく、今まで頑張ってきて良かったな、と強く思いました。本番、練習でやってきたことをすべて出し切りましたが、緑組は残念ながら4位となってしまいました。みんな頑張ってくれたのにもかかわらず、優勝できなかったことがチーフとして本当に悔しくて、涙が出ましたが、大勢で何か一つのものを作り上げるというかけがえのない経験をすることができました。2つ目は高3の時の文化祭です。学級委員長だったので、文化祭のリーダーとして企画考案から携わりました。私のクラスはバイオハザードをモチーフにした暗闇の中のシューティングゲームをすることになりました。

た。役割分担をして、トロコづくり、外装作り、動画作成など全員で協力して行いました。準備期間で思ったように進まず、本当に本番に間に合うのか、と不安がみんなの中に生まれ、衝突することもありましたが、企画は本番までに完成しました。思っていた以上にお客さんたちが私達の企画に足を運んでくれ、結果、私達のクラスは優勝することができました。最初、私の高3のクラスは高入生が多い印象で、全体的にあまり話したことのなかった人たちが多く、この1年楽しく過ごせるのかな、と不安がありました。しかし、文化祭の中でみんなで話し合ったり、助け合ったことで本当に良い企画を作ることができ、最高の文化祭になりました。このクラスの委員長になって本当に幸せでした。文化祭後のクラスマッチや学校誌のクラスページの作成なども、とても楽しい思い出になりました。何かのリーダーになるのはとても勇気がいるし、大変なこともあります。しかし、茨中に入ったら、リーダーだけではなく、「初めて」のことに挑戦してみる事が大事だと思います。それは自分の中で初めてのことであれば何でも良くて、そうやって行った経験はずっと記憶に残り、自分のためになると思います。小さなことでも挑戦し続ける気持ちが大事だと思います。

茨中・茨高の良いところは6年間という長い時間を友達や先生方と過ごせることです。この6年間のうちに出会った友達のおかげで私は勉強も運動もともに頑張ることができたと思っています。分からないところを教え合ったり、スポーツで戦ったり、友人たちと過ごした日々は私の宝物です。特に高3は進路にずっと悩み、勉強が本当に辛かった時期もあって、友人たちの存在がなかったら私は学校に行けなかったと思います。先生方には6年間で勉強に関して何度も質問に行かせていただいたり、辛いときに話を聞いていただいたりして、何度も助けられました。また、私の家庭は転勤族であるため、今までこんなに長い間同じ環境で同じ友人たちと過ごしたことはありませんでした。これから先にもこんなに多くの友人と長く付き合える時間はあまりないと思います。そういった意味で、私はこの中高一貫という制度があって良かったと感じました。また、中高一貫であれば将来のことを早くからゆとりを持って考える事ができます。私は大まかではありましたが、「将来こういう進路に行きたいな」という思いは中3の頃から抱いていました。きっと中高一貫だったから先のことを少しだけ早く考えることができた、だから進路の幅を増やすこともできたのではないかと思います。日々のテストを一生懸命こなせば自分の時間を作れるし、自分の興味のある様々なことにもチャレンジできると思います。

私は大学進学後、機械装置と脳神経を学び、病気で脳に障害をもった人々の回復に貢献したいと思っています。そのために、大学で生物学、化学、物理学を更に学び、人の役に立てる研究員になりたいと思います。